

編集後記

●メッセージは、「持続可能な未来に向けた下水道の挑戦」と題し、寺川孝大阪市建設局長にご執筆いただきました。大阪・関西万博の大阪ウィーク夏の陣の7月24、25日には、同市建設局の展示があり、この中で下水道の未来を提案します。これは下水道展でも展示が予定されているものです。寺川局長は、「今回の万博は、持続的な発展の中で未来を残していくターニングポイントであり、取り組みを始める最後のタイミングだ」とし、提案を通じて「多くの方々に、我々の考えていることを知っていただき、自分事として捉えて、一緒になって取り組んでいただきたい」と意気込みを語ってくださいました。

●エンジニアリングレポート1では、①「低コスト水位計を用いた雨天時浸入水調査」、②「雨天時浸入水量の多い細ブロックの絞り込みに関する調査・研究」、③「プラチナシステムを用いた脱炭素化技術の開発に関する共同研究」について報告しています。①では、雨天時浸入水調査に使用した低コスト水位計の概要、調査概要や結果、考察、②では、中ブロックから細ブロックへのさらなる絞り込みを実施した手法等、③では脱炭素化技術の開発に向けて実施した、プラチナシステム導入前後での運転データや導入効果の分析結果等を紹介しています。エンジニアリングレポート2では、令和6年度における研究成果の概要（国土交通省および地方公共団体の政策支援に関連した共同研究）を紹介しています。

●研究室探訪では、公立鳥取環境大学環境学部の戸荻丈仁准教授の研究室にお伺いしました。大学、大学院時代は海岸工学を専攻し、石川県庁では河川部に配属された戸荻准教授が下水道の研究者となったきっかけや、下水道分野の魅力についてお話しいただきました。また、現在取り組んでいる研究の概要も紹介していただいています。

●「トピックス」では、静岡県交通基盤部政策管理局建設政策課未来まちづくり室に伺いました。国土交通省が公表している「災害復旧事業におけるデジタル技術活用の手引き」でも3次元点群データの活用推進が示されていますが、静岡県では3次元点群データを災害時の迅速な状況把握や災害査定等に役立てています。その活用方法やさらなる展開に向けた考え等をお話しいただきました。

●「技術活用の現場から」では、富士市東部浄化センターに伺いました。富士市では有する2浄化センターにおいてダイヤモンド・リスポンス（DR）を実施しています。DR導入の経緯や実施の流れ、どのような工夫をしているのか等を紹介しています。また、官民で「チーム」として取り組んでいるとのこと、その意気込みについても語っていただきました。

（編集委員一同）

※本誌掲載の所属等は当時のものです。

表紙の 写真



次世代に向けた新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、こどもの写真を表紙のシリーズとして掲載しています。

今号の表紙の写真は、本機構研究第一部の宮地一憲副部长のお子さんと、長男の健真（けんしん）くん14歳と次男の郷悟（きょうご）くん9歳です。

この写真は、御座白浜に家族で海水浴にいった際の1枚です。ここは三重県の志摩半島の先端に位置しており、海の透明度は高く、波もおだやかで、とてもきれいな砂浜がありました。郷悟くんは日頃テレビゲーム三昧ですが、外で遊ぶことも大好き。虫が苦手な健真くんと違って、魚やカニなどを捕まえて楽しんでいました。

下水道機構情報

No. 44
2025年7月

令和7年7月14日発行

発行者・編集者 塩路 勝久

機関誌編集委員：清水 久子／堂蘭 洋昭／津戸 正也
加藤 伸孝／栗山 進／河岸 岳人
幸田 直也／工藤美美子／富田 麻未

発行所 公益財団法人 **日本下水道新技術機構**

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512